

2020 年卒業生調査の報告

卒業生、教職員、皆さまのご協力をいただき大学 IR コンソーシアムの卒業生調査 2020 年を実施しました。ご協力に感謝します。大学 IR コンソーシアムのウェブページには調査全体の基礎集計が公開されています (<https://irnw.jp/graduates-survey>)。

大学 IR コンソーシアム卒業生調査 2020 年

調査対象：大学 IR コンソーシアム参加大学から調査を希望した 18 大学の卒業生

卒業年度：2005(平成 17)年、2010 (平成 22) 年、2015 (平成 27) 年

調査方法：Web アンケート

調査期間：2020 年 7 月～2021 年 3 月末

有効回答数：4,675 件

内 芝浦工業大学 配布 3,085 件 回収 559 件 回収率 18.1%

以下では、芝浦工業大学の調査結果との相互比較について報告します。

構成

1. 基本情報

- (1) 回答者の卒業年 (2) 回答者の性別 (3) 芝浦工業大学の学部・学科
- (4) 入学試験の形態 (5) 志望順位 (6) 高校卒業時と現在の居住地
- (7) 勤務時間外の学習時間（一週間あたり）

2. 授業や課外活動への取り組み

3. 能力の変化

4. 大学時代の留学経験

5. 満足度

- (1) 教育・研究に対する満足度 (2) 大学時代の生活全般への満足度

6. 大学とのつながり

7. 初職

- (1) 初職の就業形態 (2) 初職の業種 (3) 初職の志望 (4) 初職の選択理由

8. 転職・離職

- (1) 転職・離職の経験 (2) 転職・離職の理由

9. 現職

- (1) 現職の就業形態 (2) 現職の業種 (3) 従業員規模 (4) 勤務先での在籍年数
- (5) 現在の勤務先での職種 (6) 現在の職階 (7) 年収

10. キャリアパスへの満足度

11. 海外での勤務経験や業務における外国語の使用

12. 大学生時代に身につける能力の重要性

1.基本情報

(1) 回答者の卒業年

卒業年は卒業後5年経過(2015年卒)した卒業生が多いです。芝浦工業大学は45%、全大学は36%を占めます。なお、全大学は「その他」も多いです(35%)。本報告では、芝浦工業大学を全大学と理系の卒業生と比べます。卒業年を軸とした経年変化は、今後、データが集まってきましたら報告したいと思います。

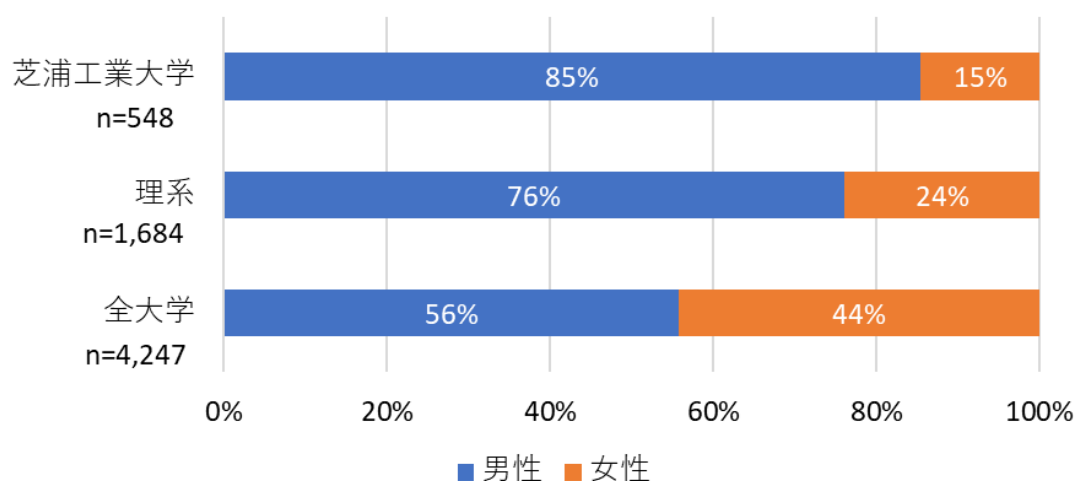
表1-1 大学卒業年(F2)

大学卒業年 (F2)	芝浦工業大学		全大学	
	件数	%	件数	%
5年 (2015卒)	250	44.7%	1,671	35.7%
10年 (2010卒)	150	26.8%	707	15.1%
15年 (2005卒)	152	27.2%	652	13.9%
その他 (上記以外の卒業年、または空欄)	7	1.3%	1,645	35.2%
合計	559	100.0%	4,675	100.0%

(2) 回答者の性別

女性の割合は、芝浦工業大学 15%、理系 24%、全大学 44%です(図 1-2)。

図 1 - 2 性別(F3)



(3) 芝浦工業大学の学部・学科

芝浦工業大学の学部構成は、工学部 76%、システム理工学部 21%、デザイン工学部 2%です（丸めのため合計は 100%にならない）。また、学科構成は、多い学科で 50 人程度(約 10%)です。

表1-3-1 芝浦工業大学の学部

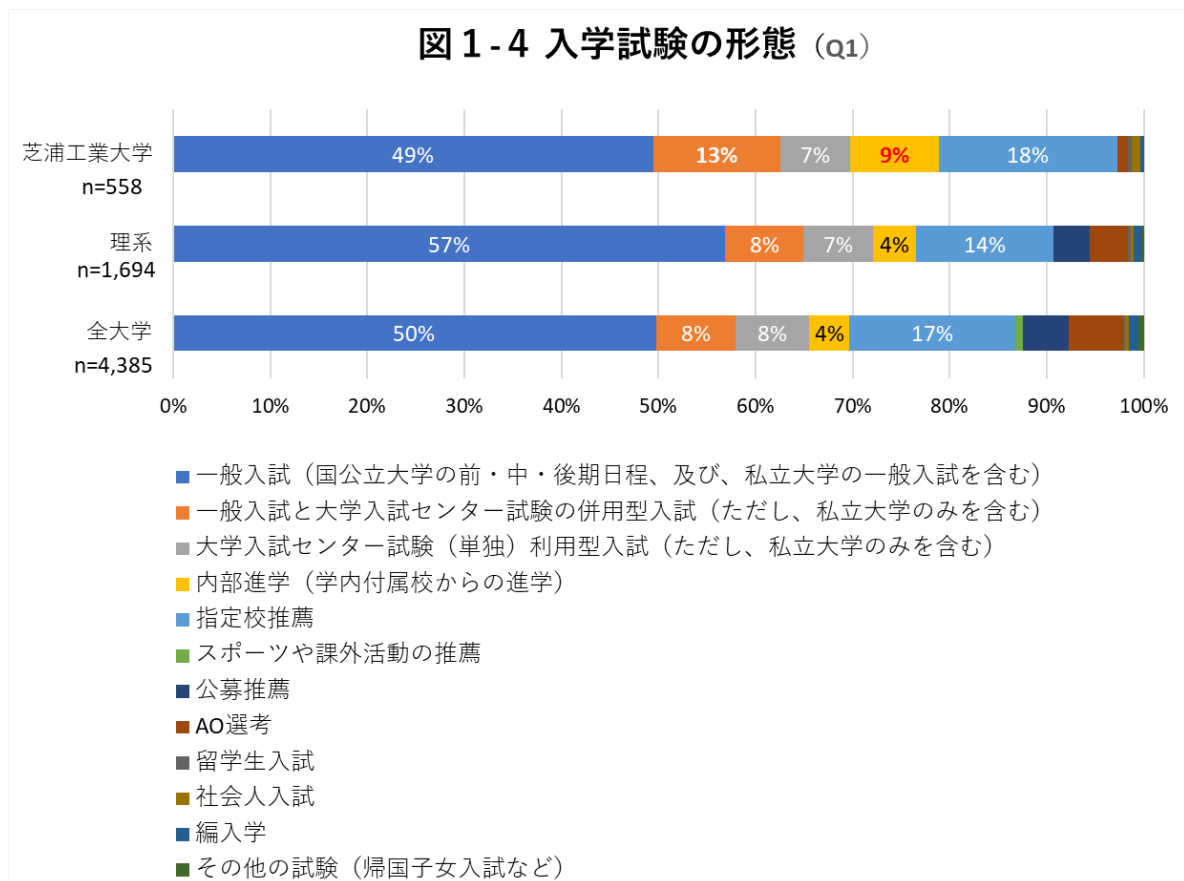
学部	人数	有効 パーセント
工学部	425	76.4
システム理工学部	119	21.4
デザイン工学部	12	2.2
合計	556	100.0
無回答	3	

表1-3-2 芝浦工業大学の学科

学科	人数	有効 パーセント
A:機械工学科	34	6.1
B:機械機能工学科	16	2.9
B:機械工学第二学科	25	4.5
C:材料工学科	33	5.9
D:応用化学科	26	4.7
D:工業化学科	2	0.4
E:電気工学科	43	7.7
F:通信工学科	34	6.1
G:電子工学科	30	5.4
H:土木工学科	56	10.1
J:建築学科	43	7.7
K:建築工学科	39	7.0
L:工業経営学科	2	0.4
L:情報工学科	36	6.5
N:生命科学科	12	2.2
P:電子情報システム学科	37	6.7
Q:機械制御システム学科	27	4.9
R:環境システム学科	29	5.2
S:機械工学科（二部）	1	0.2
T:電気工学科（二部）	4	0.7
V:数理科学科	14	2.5
W:電気設備学科（二部）	1	0.2
Y:デザイン工学科	12	2.2
合計	556	100.0
無回答	3	

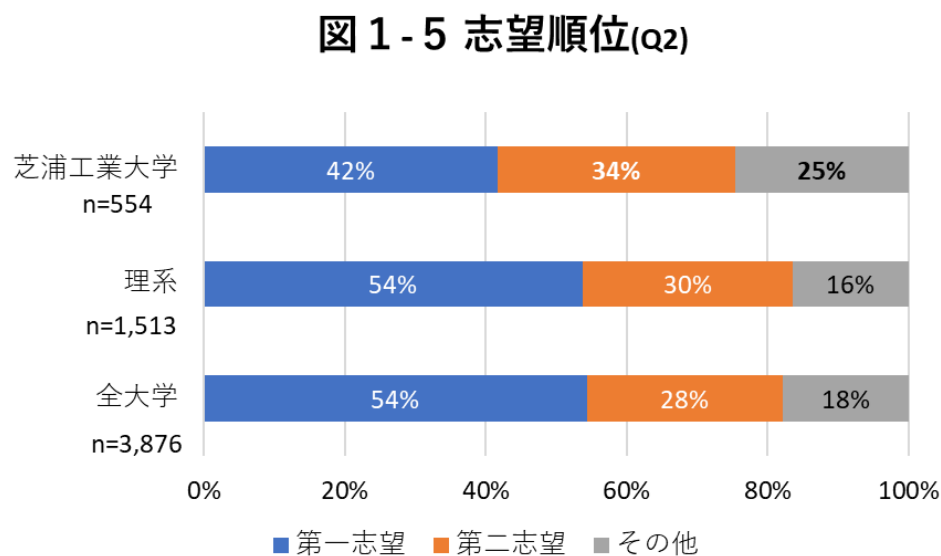
(4) 入学試験の形態

芝浦工業大学は、一般入試と大学入試センター試験の併用型(13%)と内部進学(学内付属校からの進学)(9%)が多いです(図 1-4)。



(5) 志望順位

芝浦工業大学は、第二志望(34%)とその他(25%)が多いです(図 1-5)。



(6) 高校卒業時と現在の居住地

芝浦工業大学は、関東が高校卒業時と現在の居住地の8割近くを占めています。

表1-6 高校卒業時と現在の居住地(F4A/F4B)

		北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄	海外	合計
高校卒業時の居住地 (F4A)	芝浦工業大学	4	24	426	54	10	11	7	13	4	553
		0.7%	4.3%	77.0%	9.8%	1.8%	2.0%	1.3%	2.4%	0.7%	100.0%
	理系	130	105	636	210	304	44	23	218	8	1,678
		7.7%	6.3%	37.9%	12.5%	18.1%	2.6%	1.4%	13.0%	0.5%	100.0%
	全大学	298	191	1,783	362	846	132	476	293	12	4,393
		6.8%	4.3%	40.6%	8.2%	19.3%	3.0%	10.8%	6.7%	0.3%	100.0%
現在の居住地 (F4B)	芝浦工業大学	2	16	429	50	19	10	3	14	2	545
		0.4%	2.9%	78.7%	9.2%	3.5%	1.8%	0.6%	2.6%	0.4%	100.0%
	理系	103	77	805	188	291	51	11	187	3	1,716
		6.0%	4.5%	46.9%	11.0%	17.0%	3.0%	0.6%	10.9%	0.2%	100.0%
	全大学	238	144	2,098	323	964	123	401	255	26	4,572
		5.2%	3.1%	45.9%	7.1%	21.1%	2.7%	8.8%	5.6%	0.6%	100.0%

図1-6-1 高校卒業時の居住地(F4A)

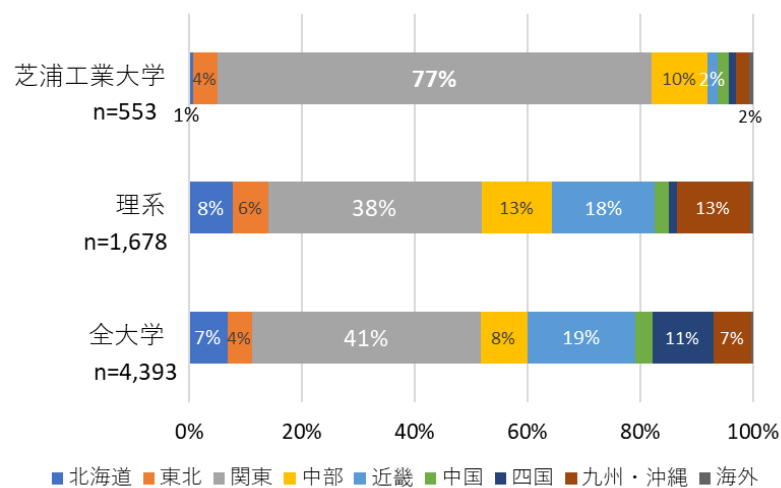
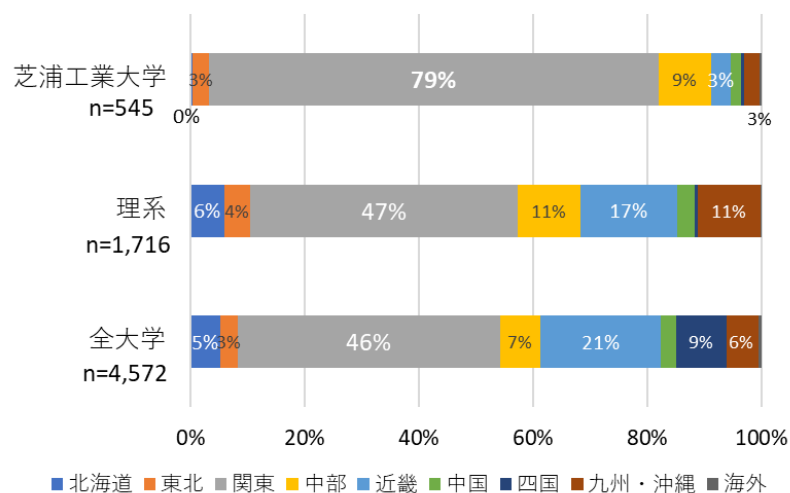


図1-6-2 現在の居住地(F4B)



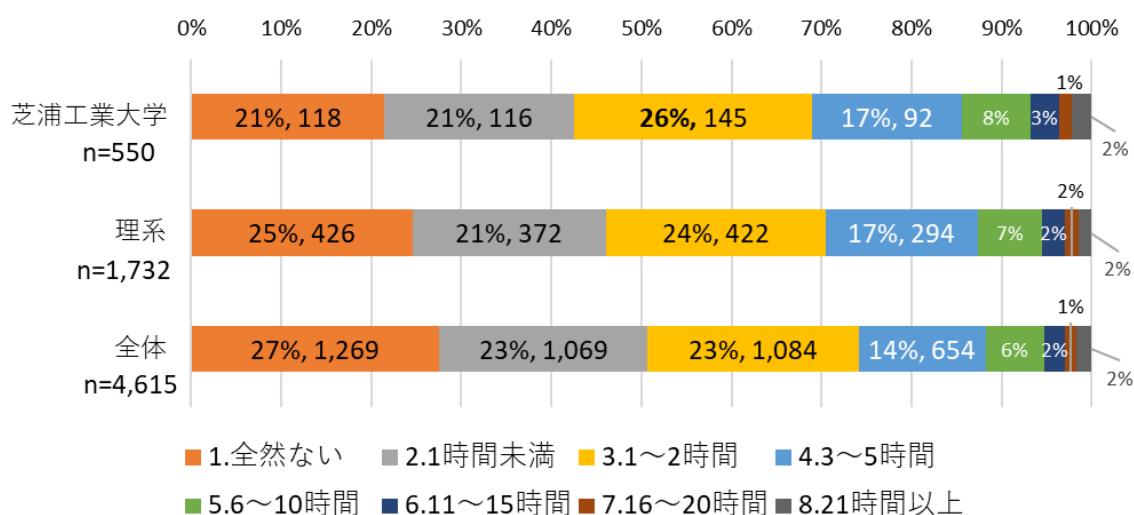
(7) 勤務時間外の学習時間（一週間あたり）

一週間あたりの学習時間は、芝浦工業大学、理系、全大学で大きな違いはありません。
ただし、最頻値は、芝浦工業大学は1～2時間(26%)、理系と全大学は全然ない(25%：
27%)です。

表 1 - 7 勤務時間外の学習時間(F5)

	芝浦工業大学		理系		全体	
F5.勤務時間以外の学習時間 (一週間あたり)	人数	%	人数	%	人数	%
1.全然ない	118	21%	426	25%	1,269	27%
2.1時間未満	116	21%	372	21%	1,069	23%
3.1～2時間	145	26%	422	24%	1,084	23%
4.3～5時間	92	17%	294	17%	654	14%
5.6～10時間	42	8%	123	7%	295	6%
6.11～15時間	17	3%	43	2%	109	2%
7.16～20時間	8	1%	26	2%	58	1%
8.21時間以上	12	2%	26	2%	77	2%
総合計	550	100%	1,732	100.0%	4,615	100.0%

図 1 - 7 勤務時間外の学習時間(F5)



2. 授業や課外活動等への取り組み

卒業生調査では、授業や課外活動等への取り組みの熱心さを 10 項目についてたずねています（図 2-1～図 2-10）。全大学と理系と比べた本学の特徴は、以下のようです。

図 2-1 全学教育(一般教育科目)は大きな違いはない。「やや熱心」45%が多い。

図 2-2 外国語科目は「熱心」7%、「やや熱心」23%が若干、少ない。

外国語科目の取り組みの傾向は、近年の卒業生は違っているかも知れない。

図 2-3 専門科目(実験除く)は理系と同様で、「熱心」37%、「やや熱心」45%が多い。

図 2-4 専門科目(実験)は理系とほぼ同様で、「熱心」43%、「やや熱心」36%が多い。

図 2-5 ゼミや実習は大きな違いはない。「熱心」39%、「やや熱心」36%が多い。

図 2-6 卒業論文・卒業研究は理系と同様で、「熱心」50%、「やや熱心」30%が多い。

図 2-7 部・サークル活動は「やや不熱心」14%、「どちらともいえない」18%が多い。

図 2-8 資格の取得は「やや不熱心」20%、「どちらともいえない」16%が多い。

図 2-9 アルバイトは「やや不熱心」13%、「どちらともいえない」27%が多い。

図 2-10 ボランティアは「不熱心」11%、「やや不熱心」22%、「どちらともいえない」17%が多い。

図 2-1 全学教育（一般教育科目）(Q3A)

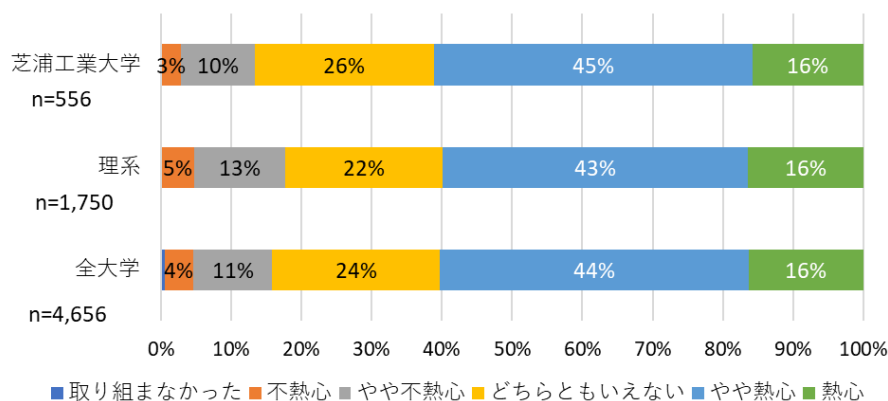


図 2-2 外国語科目(Q3B)

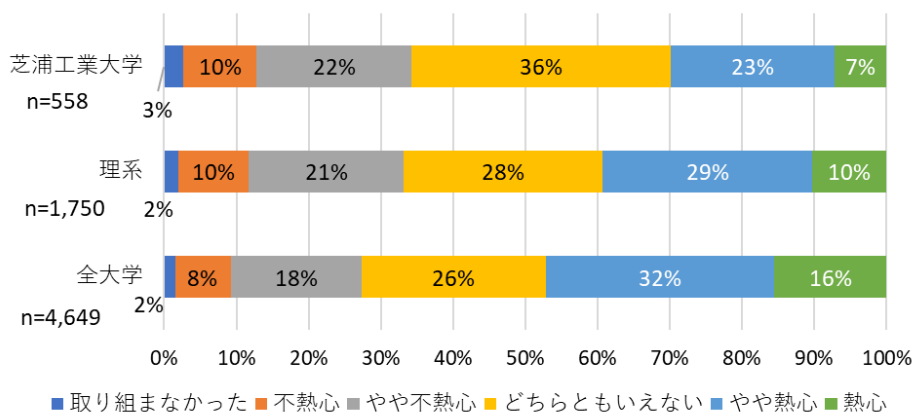


図 2 - 3 専門科目（実験除く）(Q3C)

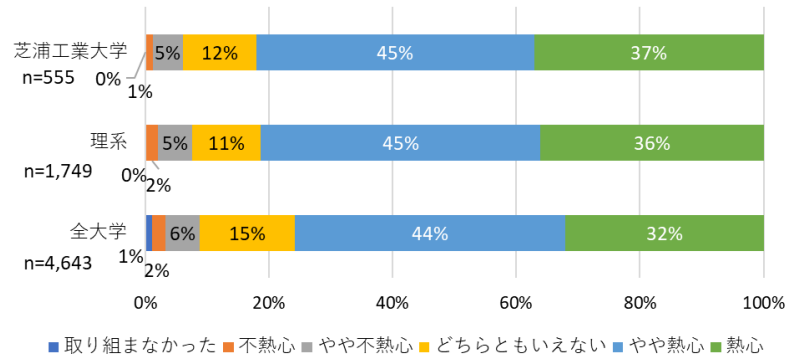


図 2 - 4 専門科目（実験）(Q3D)

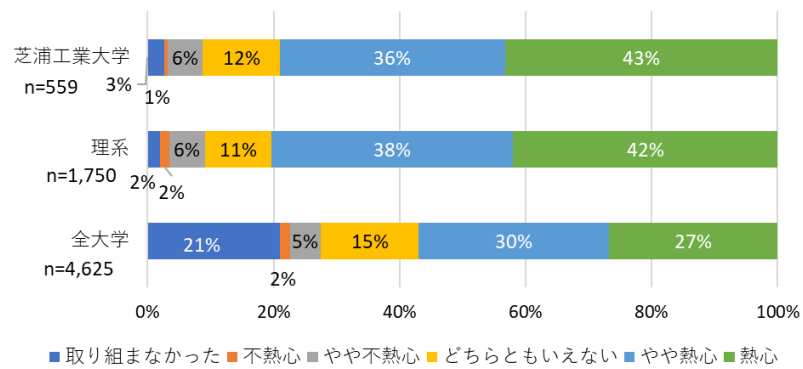


図 2 - 5 ゼミや実習(Q3E)

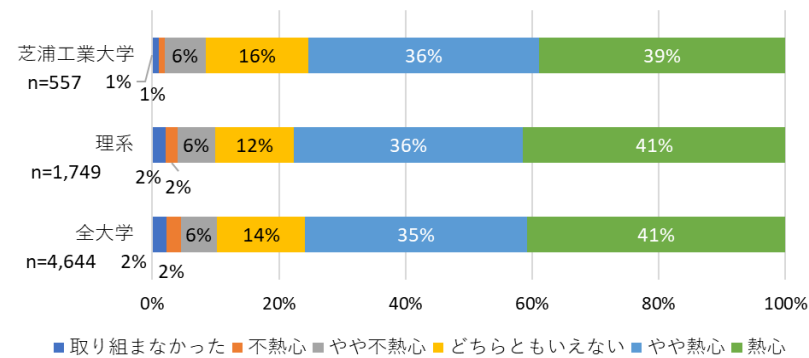


図 2 - 6 卒業論文・卒業研究(Q3F)

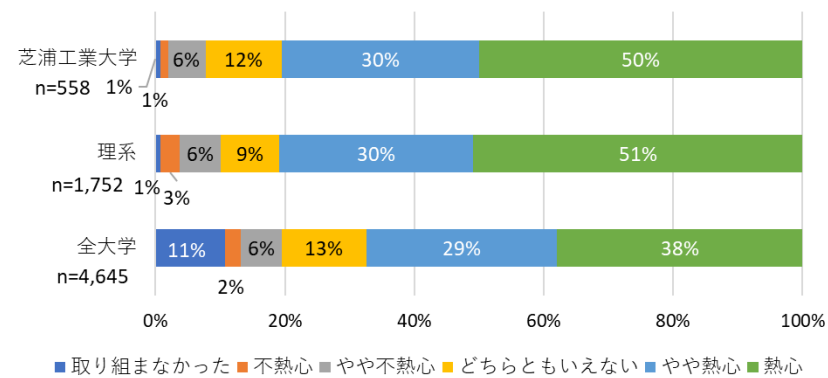


図 2-7 部・サークル活動(Q3G)

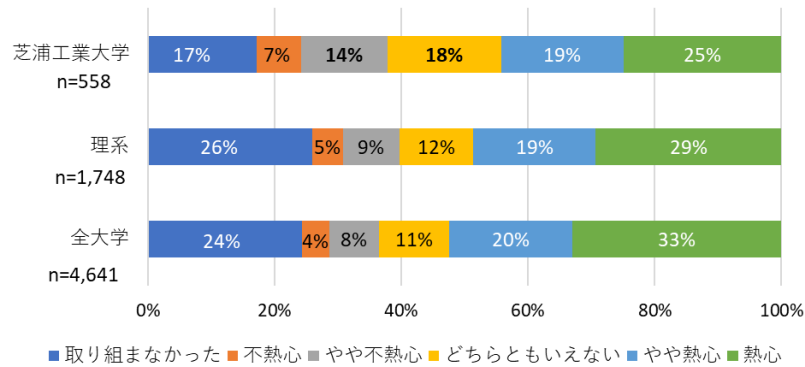


図 2-8 資格の取得(Q3H)

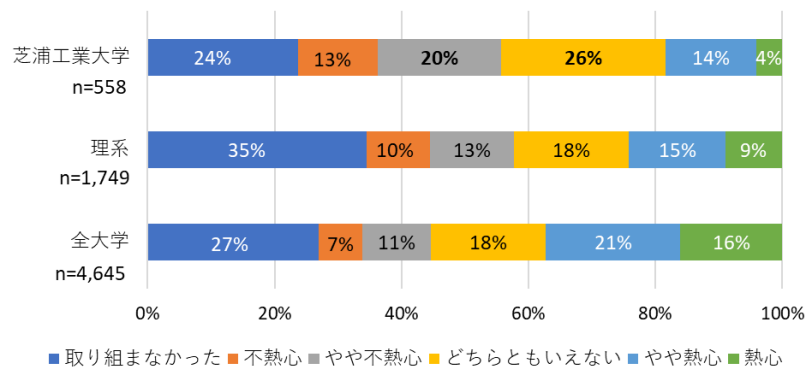


図 2-9 アルバイト (Q3I)

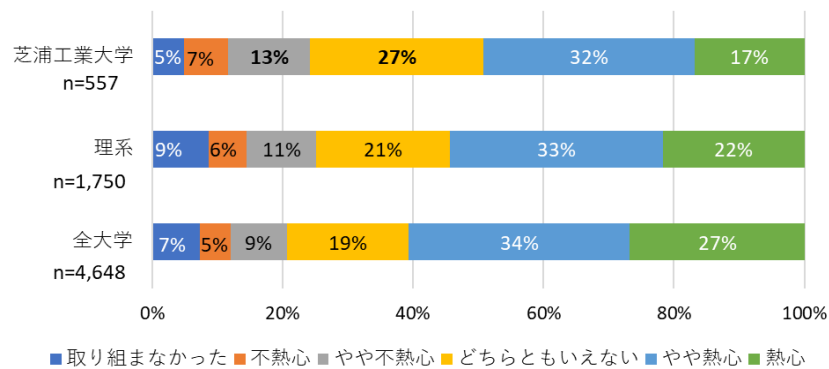
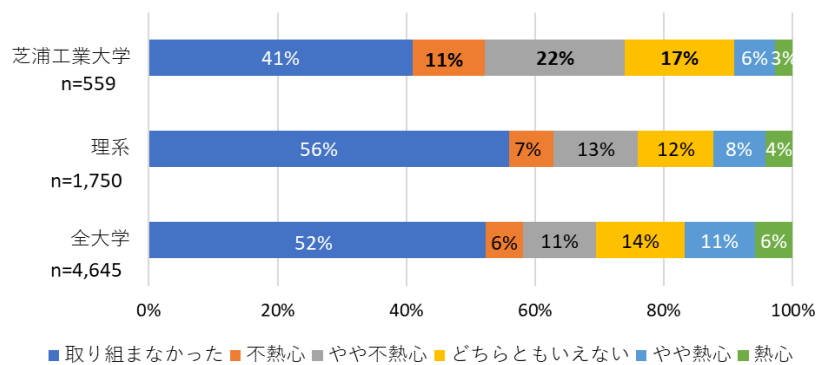


図 2-10 ボランティア (Q3J)



3. 能力の変化

卒業生調査では、在学中の能力の変化を 20 項目についてたずねています（表 3-1、図 3-1）。選択肢は、「大きく増えた」「増えた」「変化なし」「減った」「大きく減った」の 5 段階です。表 3-1 は、平均点を算出し、芝浦工業大学の点数の高い順に並べ替えました。

本学の特徴は、第一に、「専門分野や学科の知識」「コンピュータの操作能力」「分析力や問題解決能力」「プレゼンテーションの能力」「数理的な能力」で点数が高いです（C,Q,B,O,P）。全大学の点数は低くなっています（図 3-1 を参照）。

第二に、比較的点数が低い項目は、「人間関係を構築する能力」「コミュニケーションの能力」です（G,N）。こちらは、全大学の点数が高くなっています（図 3-1 を参照）。

そして第三に、点数が低い項目は、「国民が直面する問題を理解する能力」「グローバルな問題の理解」「外国語の運用能力」です（K,S,M）。全大学の点数の方が高いです（図 3-1 を参照）。

ただし以上は、卒業後 5 年、10 年、15 年の合計値です。卒業後 5 年の値では、「人間関係を構築する能力」（図 3-1-1）と「コミュニケーションの能力」（図 3-1-2）は、どちらも若干「変化なし」が多い程度です。現在の差異は大きくないと思われます。

また、「異文化の人々と協力する能力」（図 3-1-3）と「外国語の運用能力」（図 3-1-3）では、「大きく増えた」と「増えた」の回答は理系が多いです。理系の大学教育が改善したことを伺わせます。なお、本学は卒後 5 年についても、「変化なし」が多いです。本学の教育改善は、2015(平成 27)年以降の卒業生の回答に反映されるかも知れません。

表3-1 能力の変化(Q4)

質問 番号	項目名	全大学	理系	芝浦工業 大学
Q4C	C. 専門分野や学科の知識	4.3	4.4	4.4
Q4Q	Q. コンピュータの操作能力	3.9	4.2	4.2
Q4B	B. 分析力や問題解決能力	4.0	4.1	4.1
Q4O	O. プレゼンテーションの能力	3.8	4.0	4.0
Q4P	P. 数理的な能力	3.4	3.9	4.0
Q4H	H. 他の人と協力して物事を遂行する能力	4.0	4.0	4.0
Q4A	A. 一般的な教養	3.9	3.9	3.9
Q4G	G. 人間関係を構築する能力	4.0	3.9	3.9
Q4N	N. コミュニケーションの能力	3.9	3.8	3.8
Q4R	R. 時間を効果的に利用する能力	3.7	3.7	3.7
Q4T	T. 就職に向けた情報収集能力	3.7	3.7	3.7
Q4L	L. 文章表現の能力	3.7	3.7	3.7
Q4D	D. 批判的に考える能力	3.7	3.7	3.7
Q4F	F. リーダーシップの能力	3.5	3.4	3.5
Q4E	E. 異文化の人々に関する知識	3.6	3.4	3.4
Q4J	J. 地域社会が直面する問題を理解する能力	3.4	3.2	3.3
Q4I	I. 異文化の人々と協力する能力	3.4	3.2	3.3
Q4K	K. 国民が直面する問題を理解する能力	3.3	3.2	3.2
Q4S	S. グローバルな問題の理解	3.4	3.2	3.2
Q4M	M. 外国語の運用能力	3.3	3.1	3.1

* 大きく増えた5点、増えた4点、変化なし3点、減った2点、大きく減った1点の平均点
芝浦工業大学の点数で項目を並び替え

図 3 - 1 能力の変化(Q4)

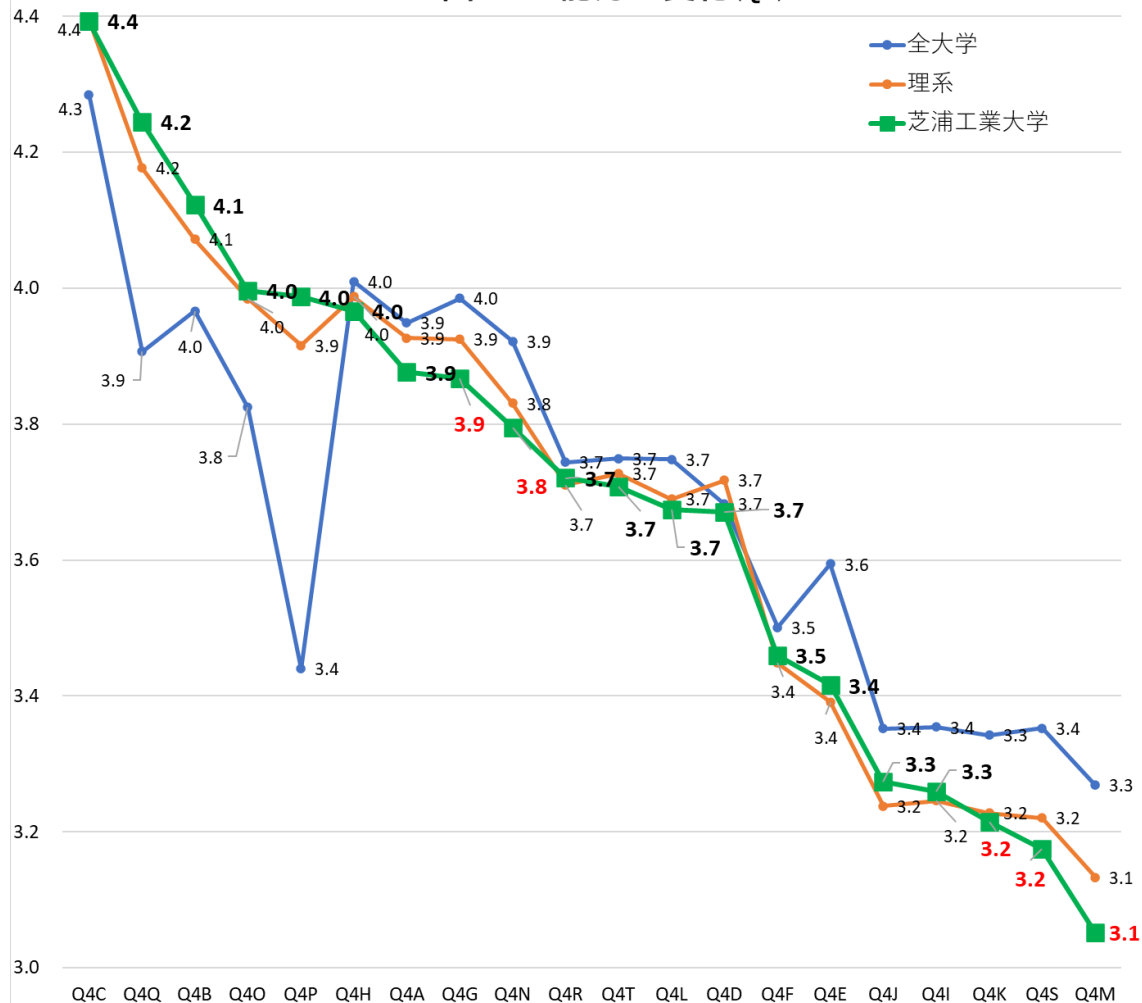


図 3 -1-1 人間関係を構築する能力

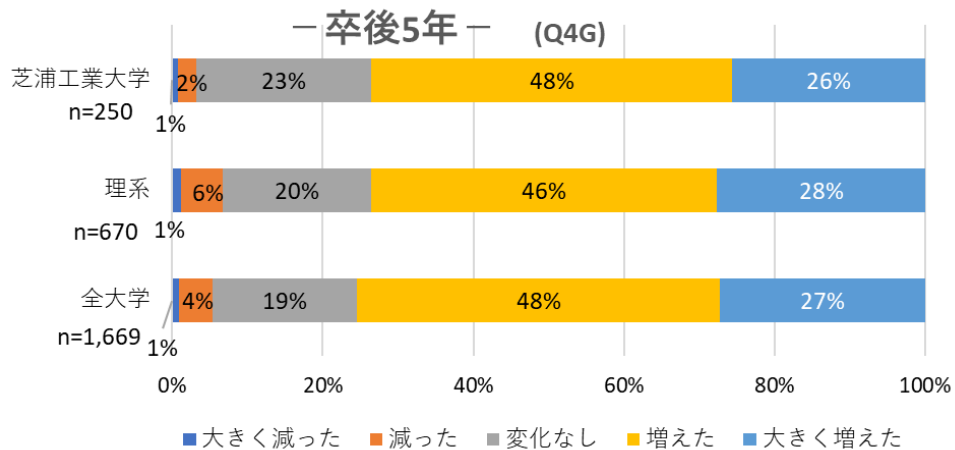


図 3 -1-2 コミュニケーションの能力

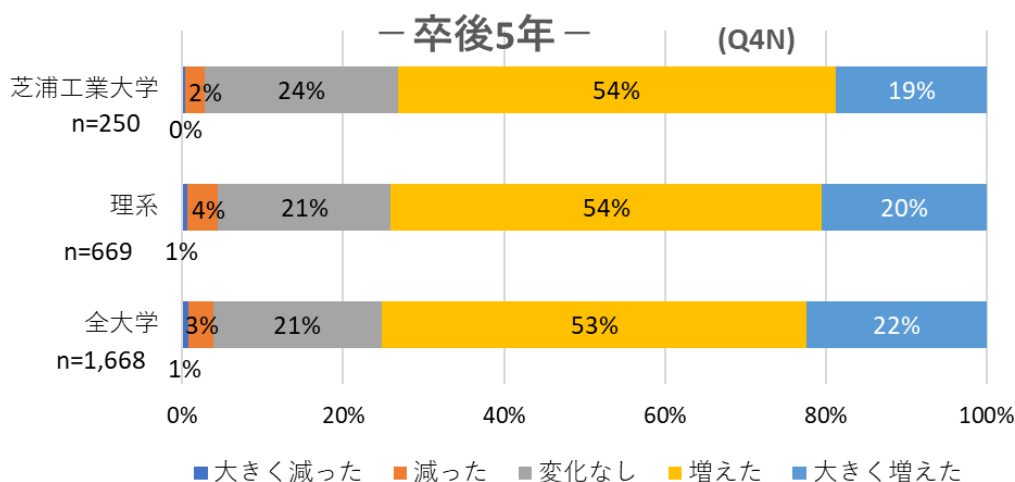


図 3 -1-3 異文化の人々と協力する能力

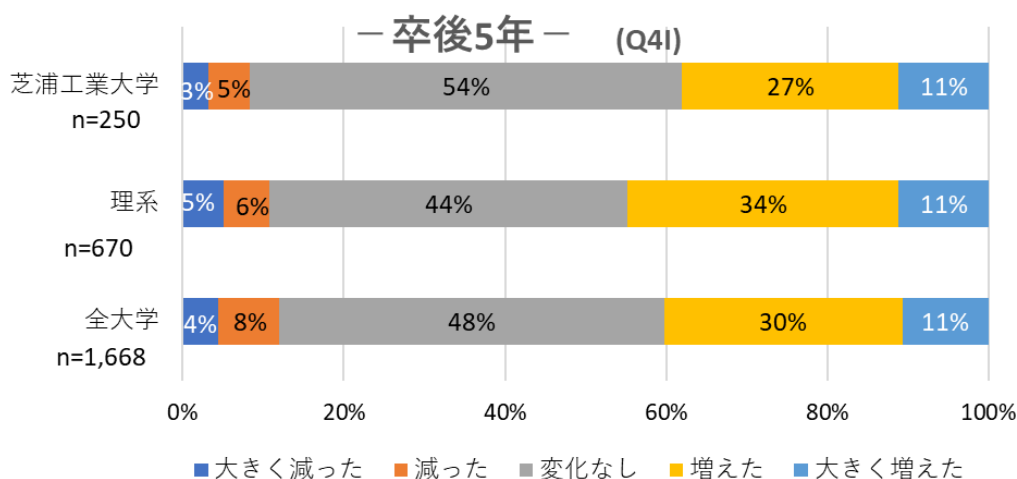
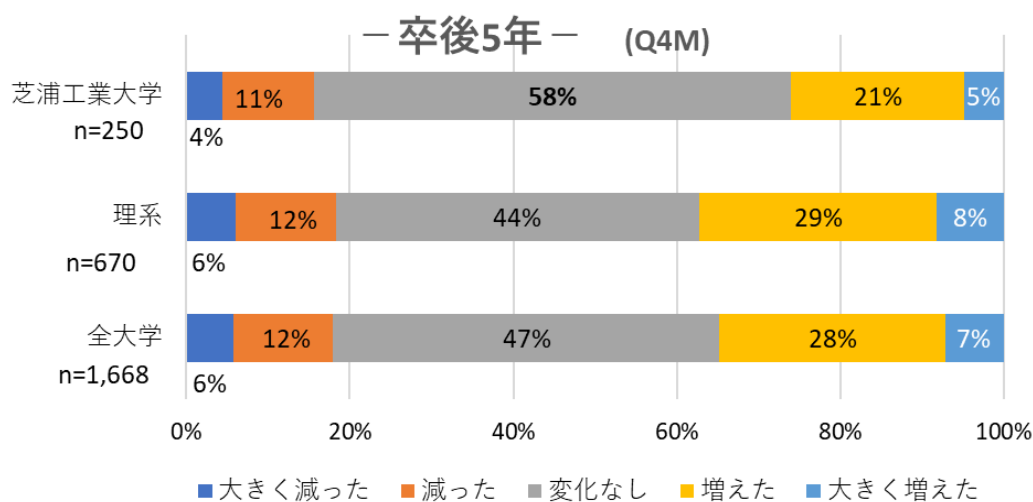


図 3 -1-4 外国語の運用能力



4. 大学時代の留学経験

大学時代の留学経験は、いずれも「渡航したことはない」が最も多いです(図 4-1。卒業後5年に限ってみると、本学の「渡航したことはない」の割合は78%で、7ポイント少なくなります。一方、全大学の「渡航したことはない」の割合は82%で、1ポイント多くなります(図 4-2)。本学は留学経験が増加する傾向にあります。

図 4 - 1 大学時代の留学経験(Q5)

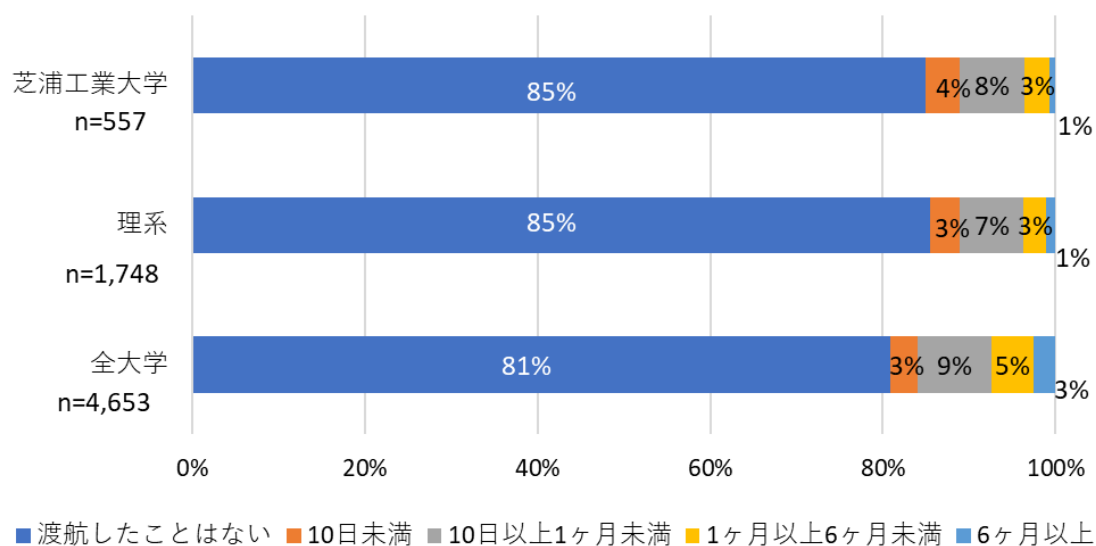
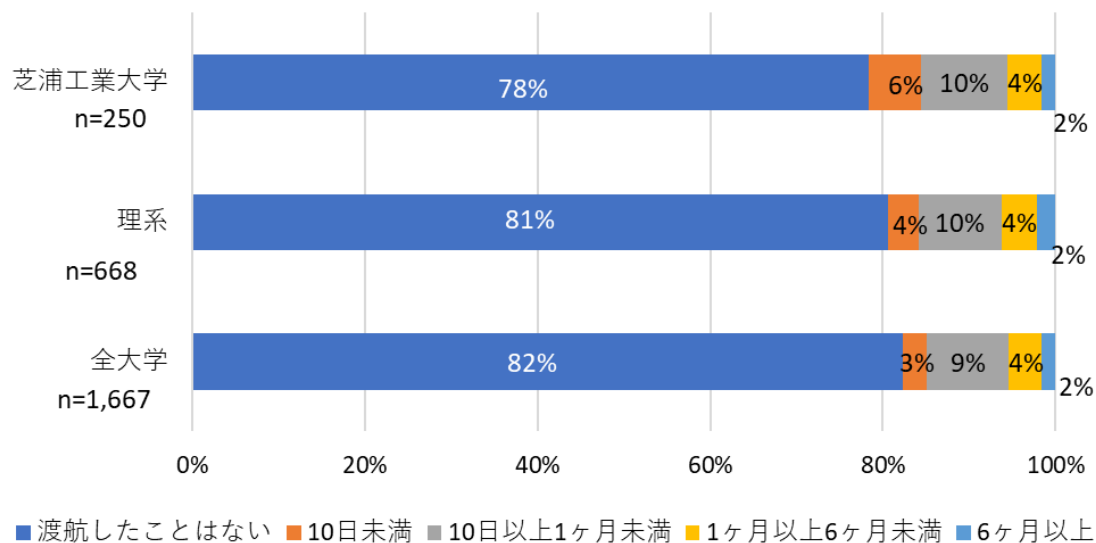


図 4 - 2 大学時代の留学経験－卒業5年－(Q5)

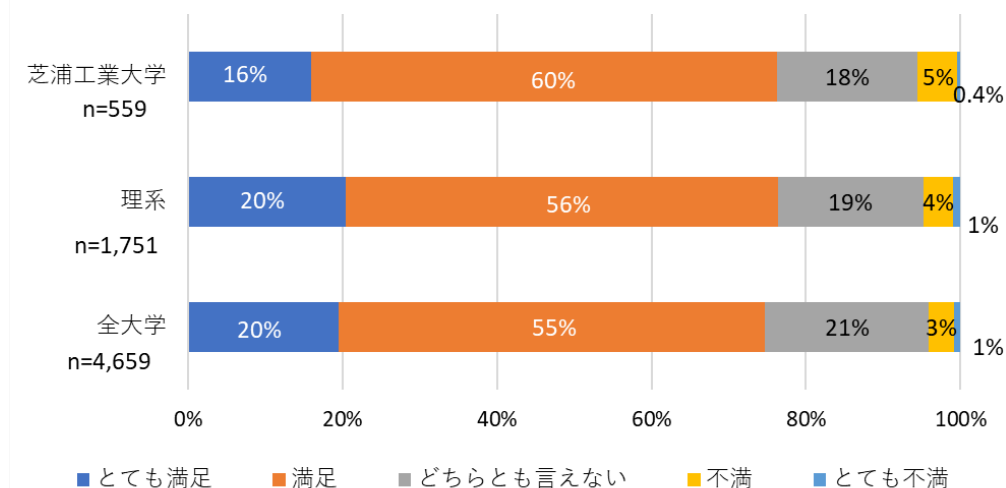


5. 満足度

(1) 教育・研究に対する満足度

教育・研究への満足度は、本学、理系、全大学とも「とても満足」と「満足」の合計で4分の3を占めます。本学は「とても満足」が若干少ないです(4ポイント)(図5-1)。

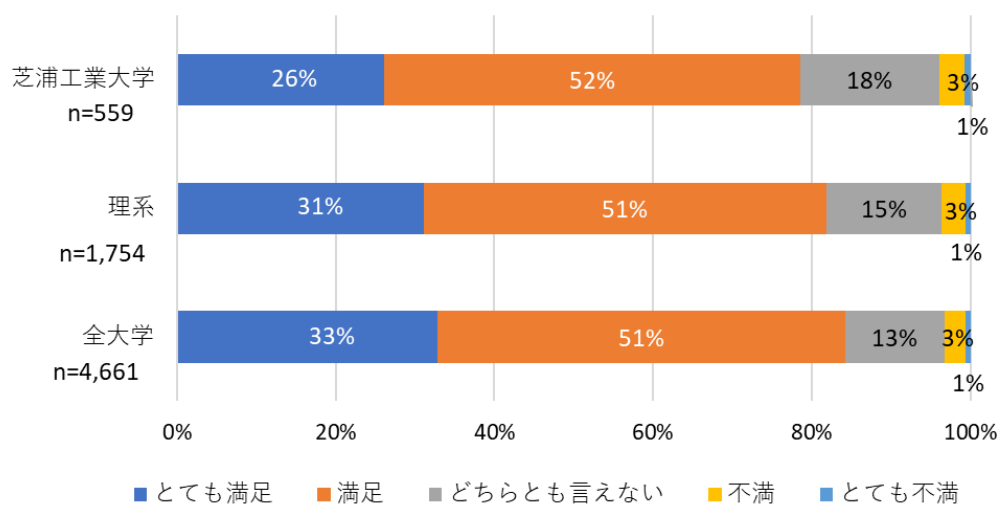
図5-1 教育・研究への満足度(Q6)



(2) 大学時代の生活全般への満足度

大学時代の生活全般への満足度は、理系、全大学では「とても満足」と「満足」の合計で8割を占めます。本学の合計は78%でわずかに及びません(図5-2)。

図5-2 生活全般への満足度(Q7)



6. 大学とのつながり

本学の卒業生は7割が「つながりはある」と答えています。全大学や理系より若干少ないです(図 6-1)。調査では12項目の「つながり」をたずねています(図 6-2-13)。

同窓との付き合いを保っている卒業生が4割程度で最も多いです。次いで、ゼミや研究室の集まりやクラブ・サークルの集まりに参加、恩師との付き合いが2割程度です。「ゼミや研究室の集まりに参加」する卒業生29%は、全大学や理系より若干多いです(図 6-4)。ホームページやSNSは1割程度の卒業生が閲覧しています。そして、同窓会やホームカミングデー等の諸行事や企業内、職域等での同窓の集まりには1割弱が参加しています。なお、「仕事上のつながりがある」は6%で、本学は全大学や理系より若干少ないです(図 6-12)。「大学に寄付をしたことがある」「親戚に大学関係者がいる」「公開講座や図書館などを利用している」「その他」の項目は、いずれも5%未満でした。

図 6-1 つながりはない(Q18-13)

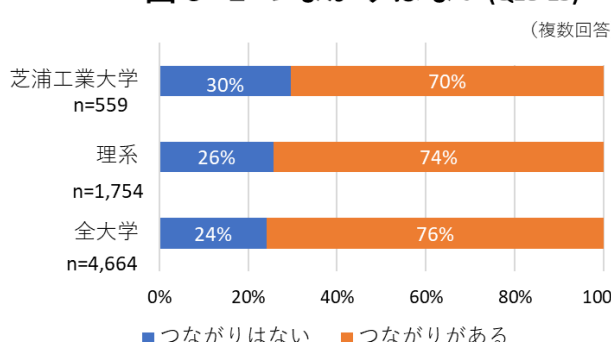


図 6-4 ゼミや研究室の集まりに参加(Q8-3)

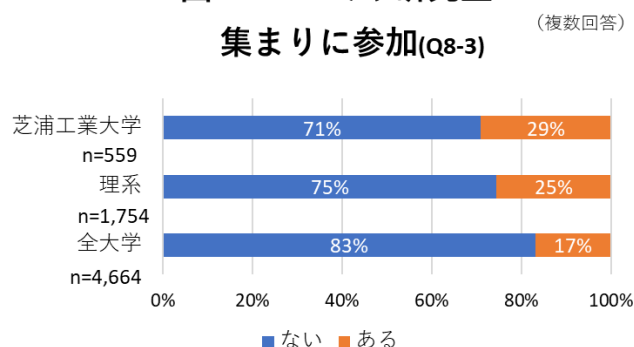


図 6-2 同窓会・ホームカミングデーや大学開催の諸行事への参加(Q8-1)

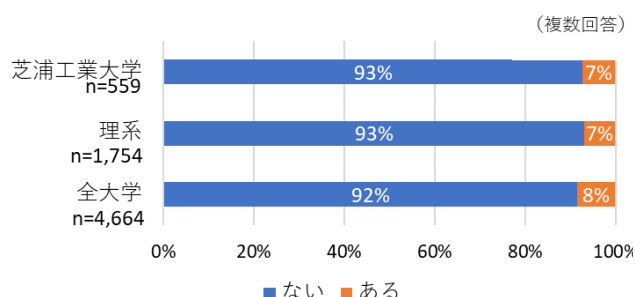


図 6-5 クラブ・サークルの集まりに参加(Q8-4)

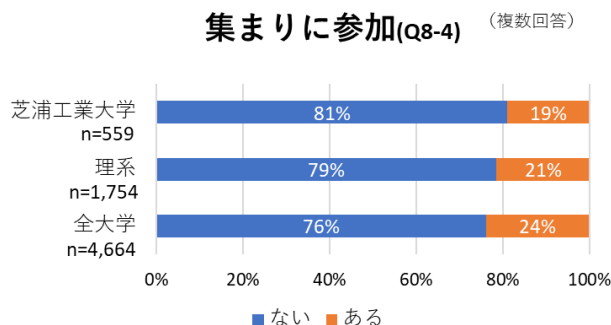


図 6-3 企業内、職域などの同窓の集まりに参加(Q8-2)

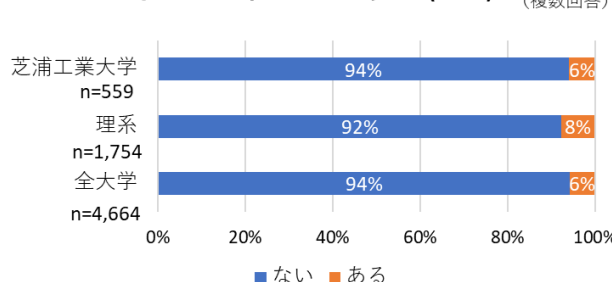


図 6-6 ホームページやSNSの閲覧をしている(Q8-5)

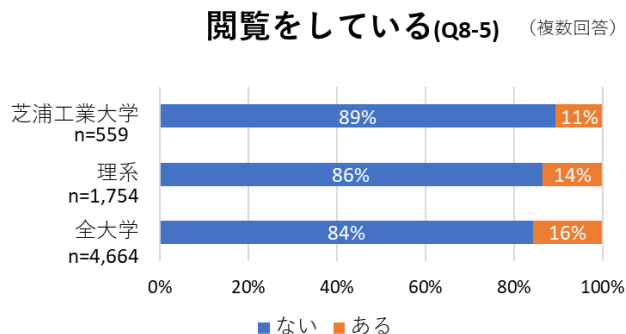


図 6 - 7 大学に寄付をした
ことがある(q8_6) (複数回答)

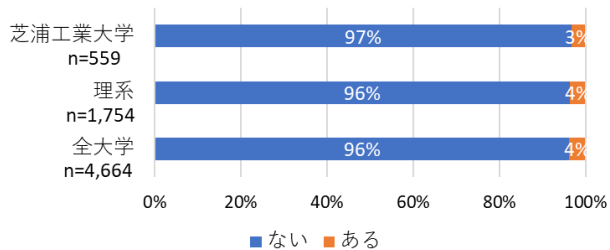


図 6 - 1 1 恩師との付き合いを
保っている(q8_10) (複数回答)

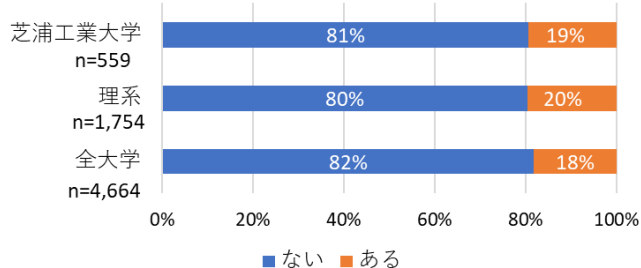


図 6 - 8 親戚に大学関係者
(学生・教職員) がいる(q6_8) (複数回答)

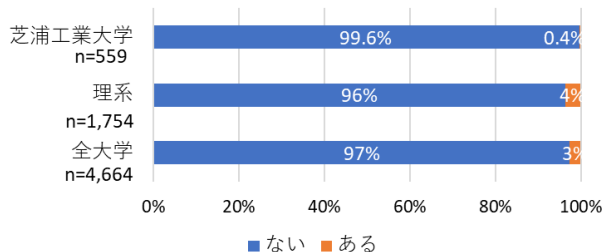


図 6 - 1 2 仕事上のつながりがある
(q8_11) (複数回答)

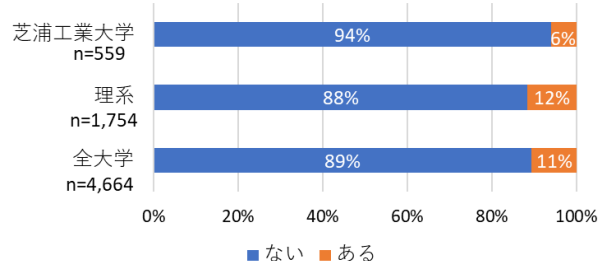


図 6 - 9 公開講座や図書館などを
利用している(q8_8) (複数回答)

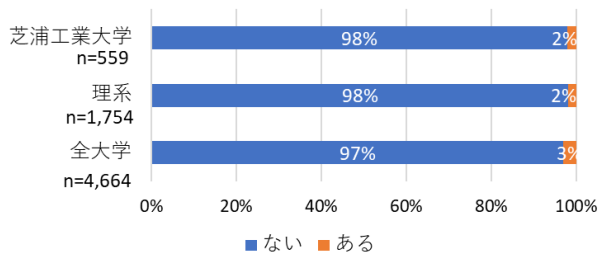


図 6 - 1 3 その他(q8_12) (複数回答)

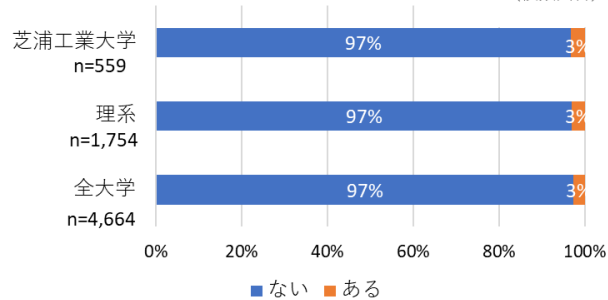
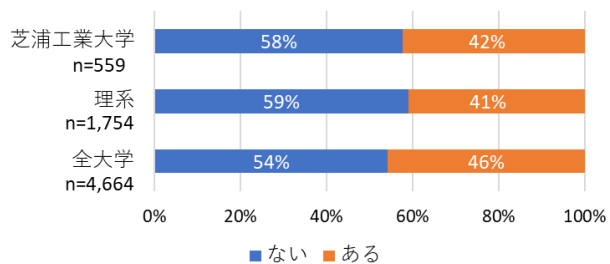


図 6 - 1 0 同窓との付き合いを
保っている(q8_9) (複数回答)

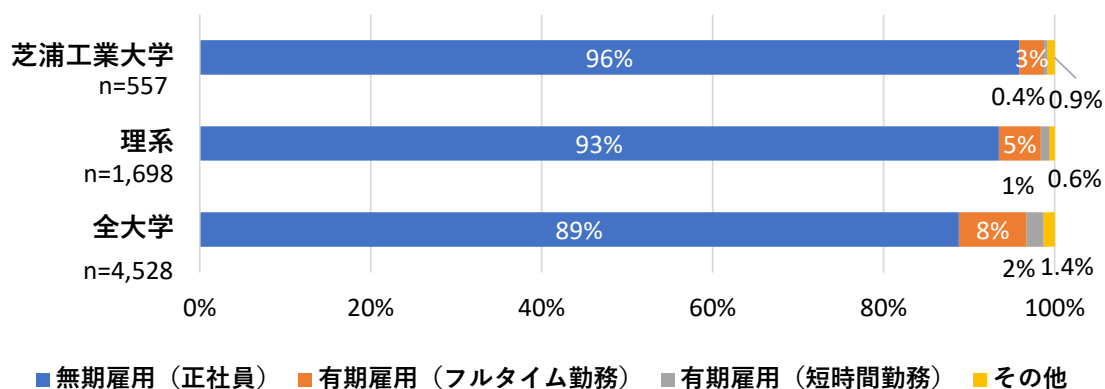


7. 初職

(1) 初職の就業形態

本学の卒業生は96%が無期雇用(正社員)で就職しています。全大学より7ポイント、理系より3ポイント多いです(図7-1)。

図7-1 初職の就業形態(Q9_1)



(2) 初職の業種

卒業生の初職の主な業種は、製造業(34%)、建設業(21%)、情報通信業(14%)等です。製造業は、全大学より18ポイント、理系より5ポイント多いです。建設業は、全大学より15ポイント、理系より9ポイント多いです。そして、情報通信産業は、全大学より5ポイント多いですが、理系より1ポイント少ないです(次ページ、図7-2)。

(3) 初職の志望

初職の志望は、「第1志望」が3割を越え、「ほぼ志望どおり」は4割を越えています。全大学、理系も同様の結果で、8割近くが志望する初職に就いています(図7-3)。

図7-3 初職の志望(Q9_3)

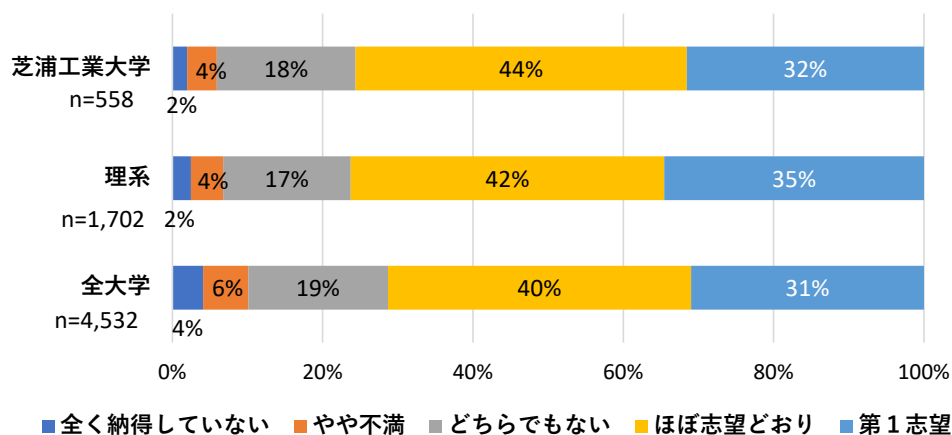
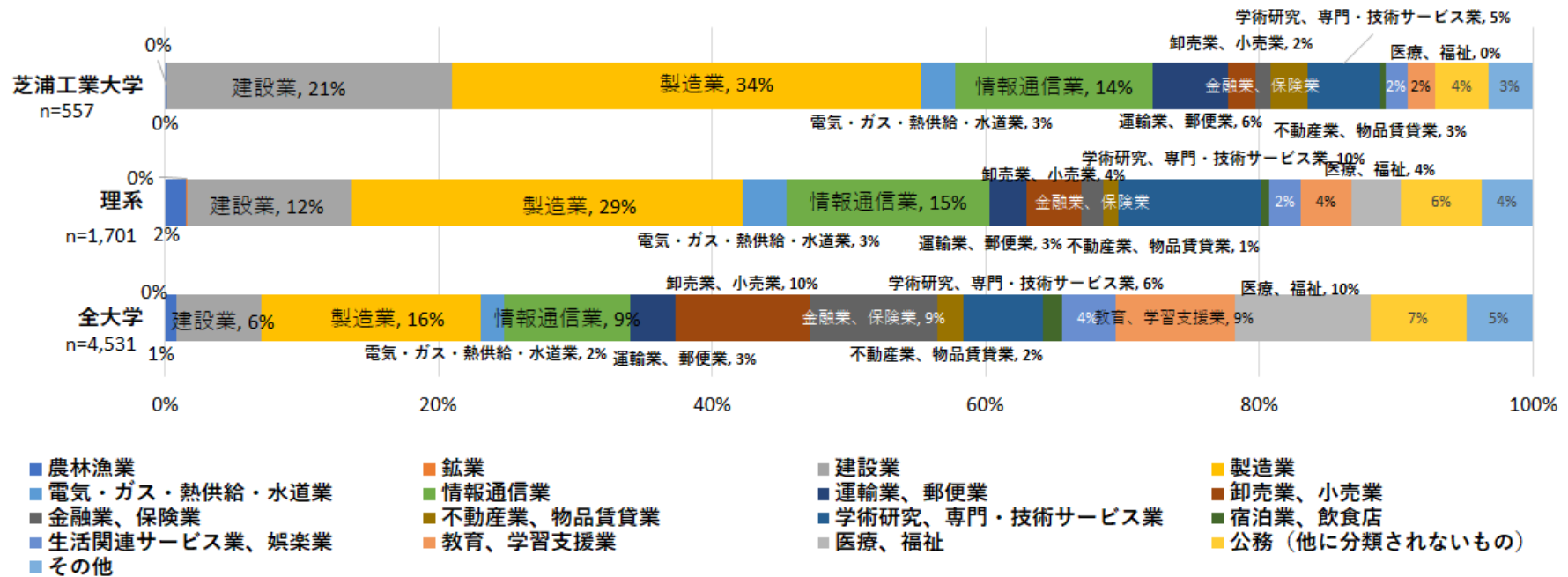


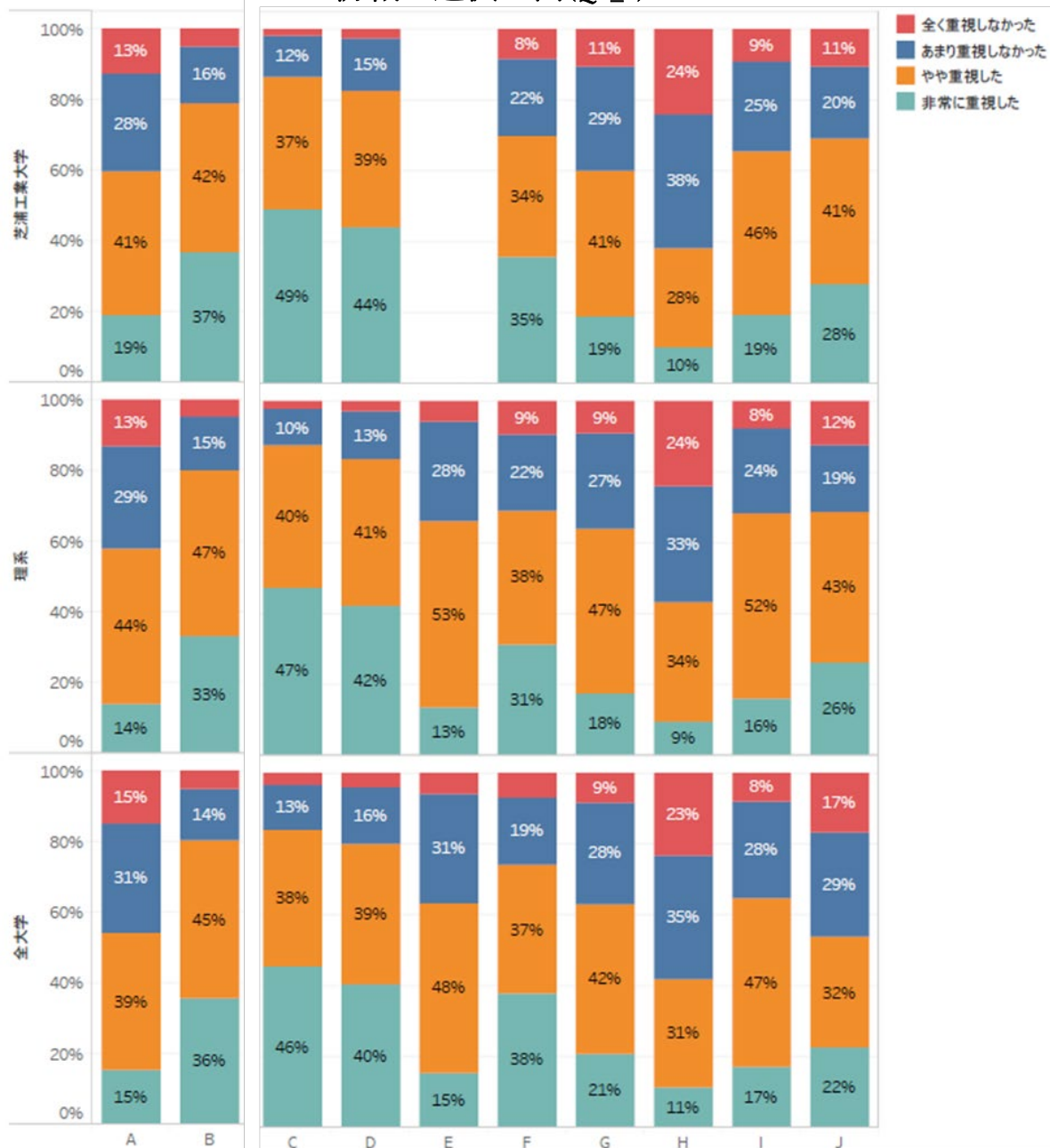
図 7-2 初職の就職先の業種(q9-2)



(4) 初職の選択理由

初職の選択理由で「非常に重視した」が多い項目は、「C.職種」49%、「D.業種」44%、「B.安定性」37%、「F.勤務地」35%、そして「J.専門分野とのつながり」28%です。全大学、理系も同様です。なお、本学では「E.収入」をたずねていません(図7-4)。

図7-4 初職の選択理由(Q9_4)



A.知名度 (n=557: n=1,654: n=4,283)

B.安定性 (n=556: n=1,654: n=4,280)

C.職種 (n=556: n=1,654: n=4,293)

D.業種 (n=557: n=1,657: n=4,282)

E.収入 (n= 0: n=1,097: n=3,722)

F.勤務地 (n=556: n=1,663: n=4,290)

G.福利厚生 of 充実 (n=557: n=1,658: n=4,283)

H.周囲の薦め・紹介 (n=557: n=1,657: n=4,284)

I.将来性 (n=557: n=1,653: n=4,276)

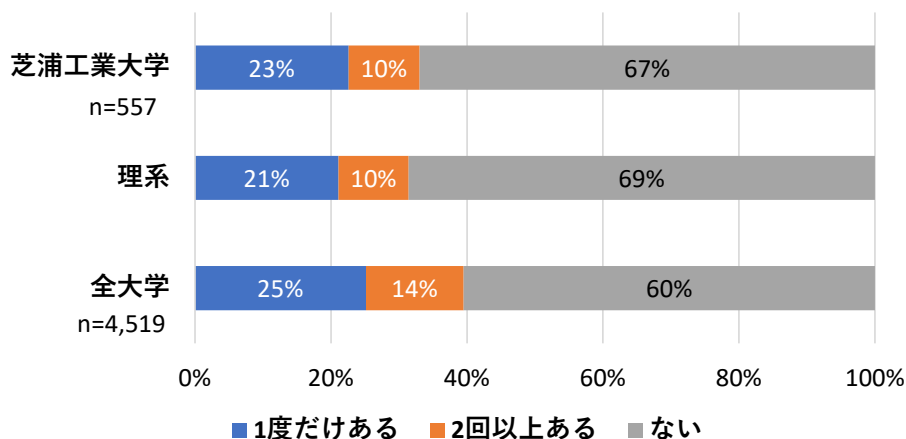
J.専門分野とのつながり (n=555: n=1,651: n=4,273)

8. 転職・離職の経験

(1) 転職・離職の経験

転職や離職の経験は、本学の卒業生は「1度だけある」23%、「2回以上ある」10%です。理系とほぼ同じで、全大学より若干少ないです(図 8-1)。

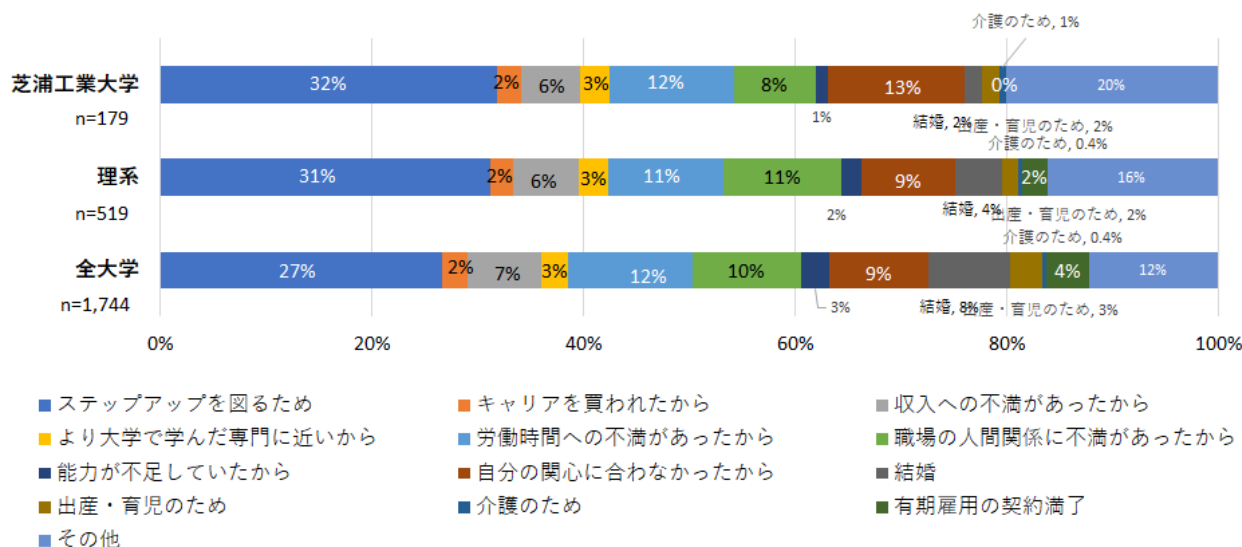
図 8 - 1 転職・離職の経験(Q10_1)



(2) 転職・離職の理由

転職・離職で最も多い理由は「ステップアップを図るため」32%です。次いで、「自分の関心に合わなかったから」13%、「労働時間への不満があったから」12%「職場の人間関係に不満があったから」8%等と続きます。全大学、理系も同様の傾向ですが、本学は「自分の関心に合わなかったから」が若干多く、「職場の人間関係に不満があったから」が若干少ないです。なお、「その他」が本学では20%を占めています(図 8-2)。

図 8 - 2 転職・離職の理由(Q10_2)

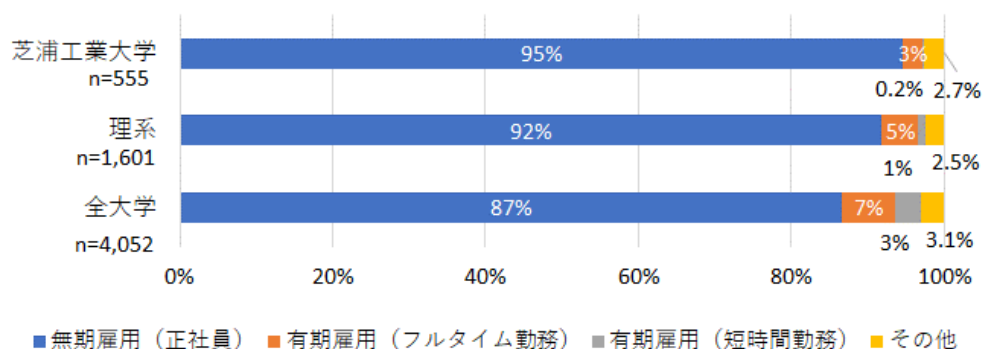


9. 現職

(1) 現職の就業形態

本学の卒業生は現職で 95%が無期雇用(正社員)で就職しています。全大学より 8 ポイント、理系より 3 ポイント多いです(図 9-1)。

図 9-1 現職の就業形態(Q11_1)



(2) 現職の業種 (初職と異なる)

卒業生の現職の主な業種は、製造業(23%)、建設業(15%)、情報通信業(15%)等です。製造業は、全大学より 10 ポイント、理系より 4 ポイント多いです。建設業は、全大学より 9 ポイント、理系より 4 ポイント多いです。そして、情報通信産業は、全大学より 4 ポイント多いですが、理系より 2 ポイント少ないです(次ページ、図 9-2)。

(3) 従業員規模

卒業生の現在の勤務先の従業員規模は、33%が 5,001 名以上です。全大学より 14 ポイント、理系より 8 ポイント多いです(図 9-3)。

図 9-3 現在の勤務先の従業員規模(Q11_3)

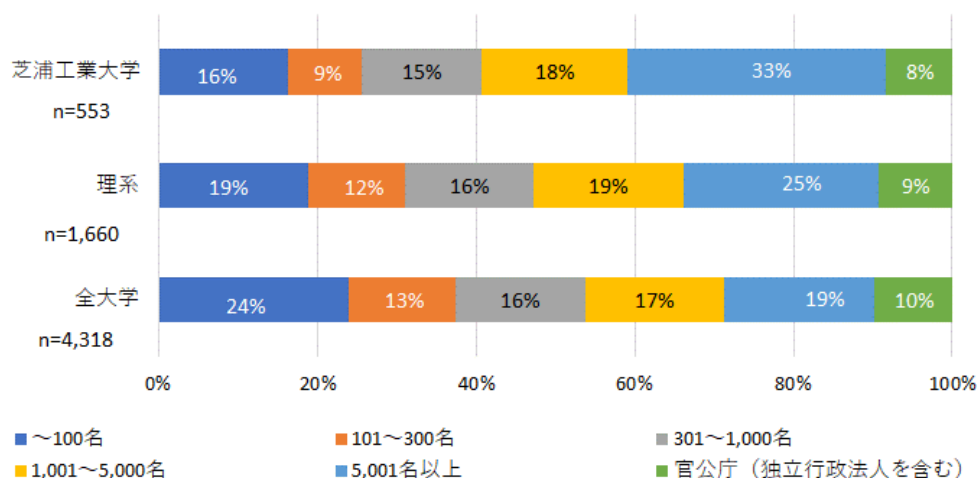
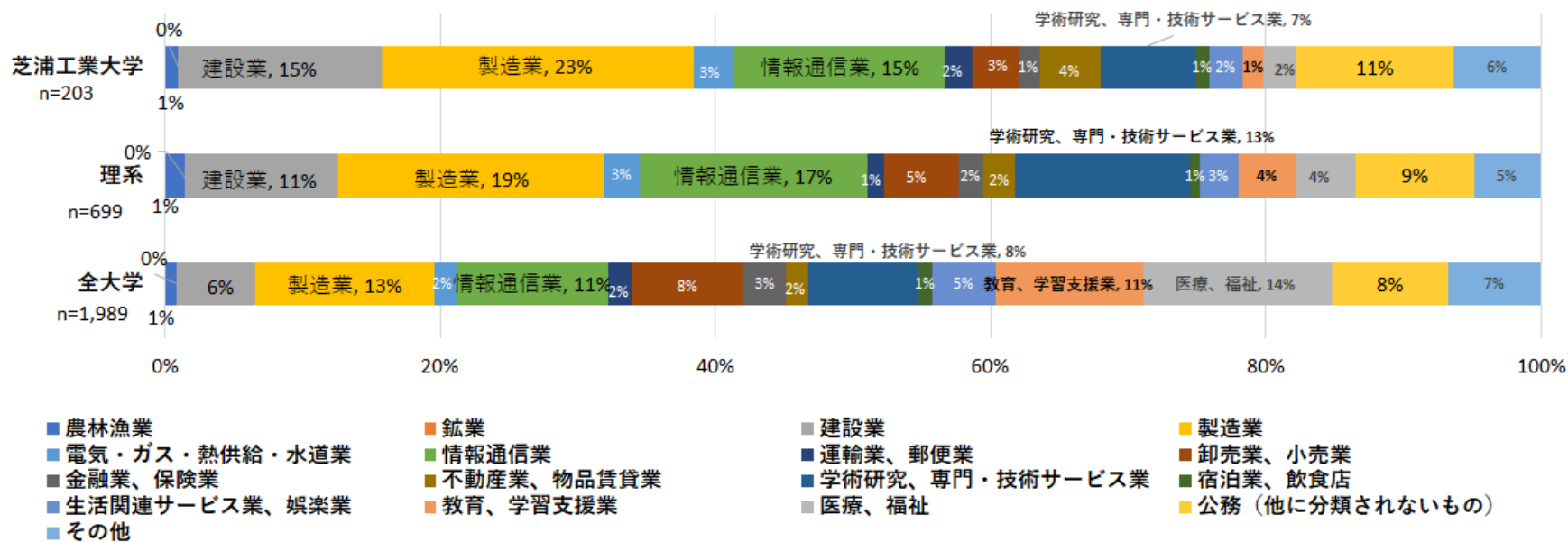


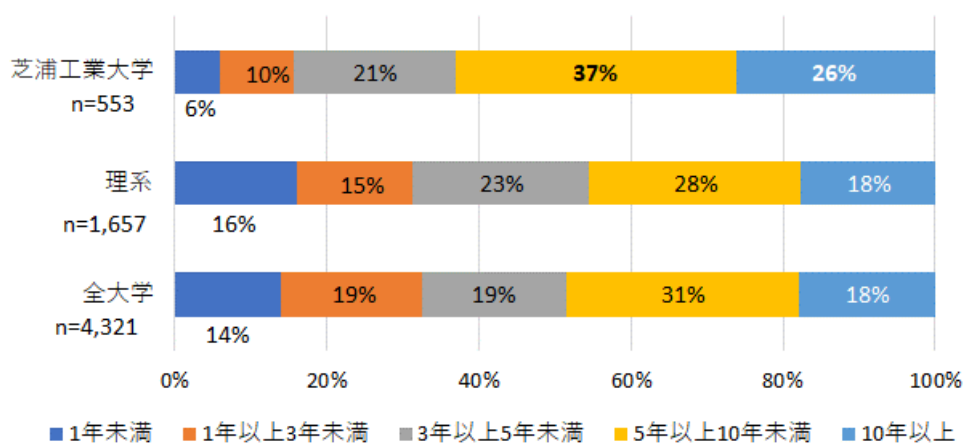
図9-2 現職の就職先の業種（転職・離職の経験者について）(Q11_2)



(4) 勤務先での在籍年数

卒業生の勤務先での在籍年数は、「5年以上10年未満」37%と「10年以上」26%が多いです。合計では6割を越えますが、全大学と理系は過半数を満たしません(図9-3)。本学の卒業生は在籍年数が長い傾向があります。

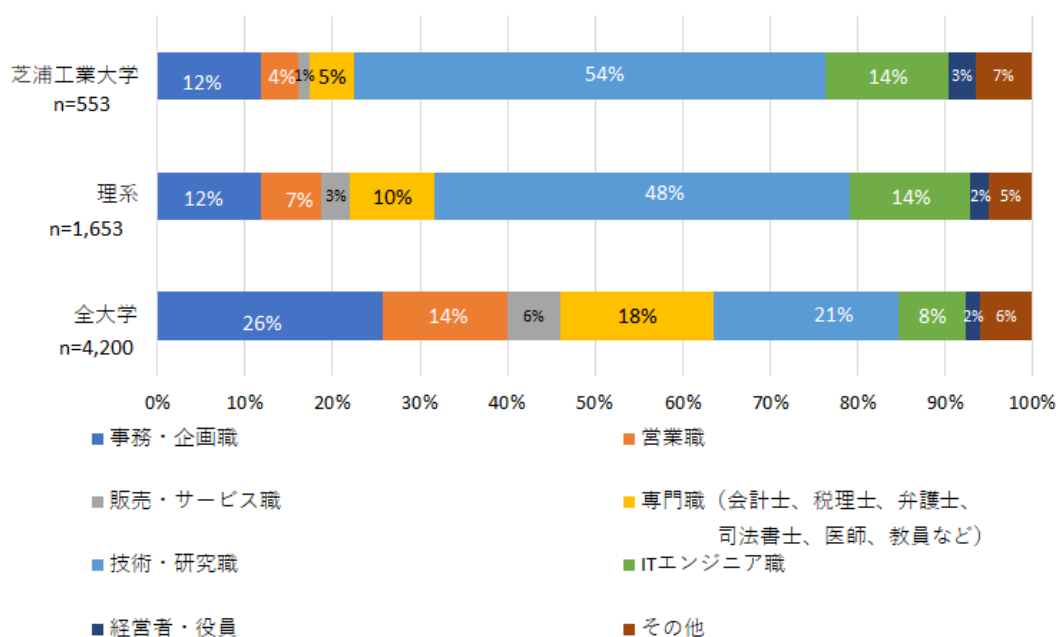
図9-4 現在の勤務先での在籍年数(Q11_4)



(5) 現在の勤務先での職種

卒業生の勤務先での主な職種は、「技術・研究職」54%、「ITエンジニア職」14%、「事務・企画職」12%です。「技術・研究職」は全大学より33ポイント、理系より6ポイント多いです(図9-5)。

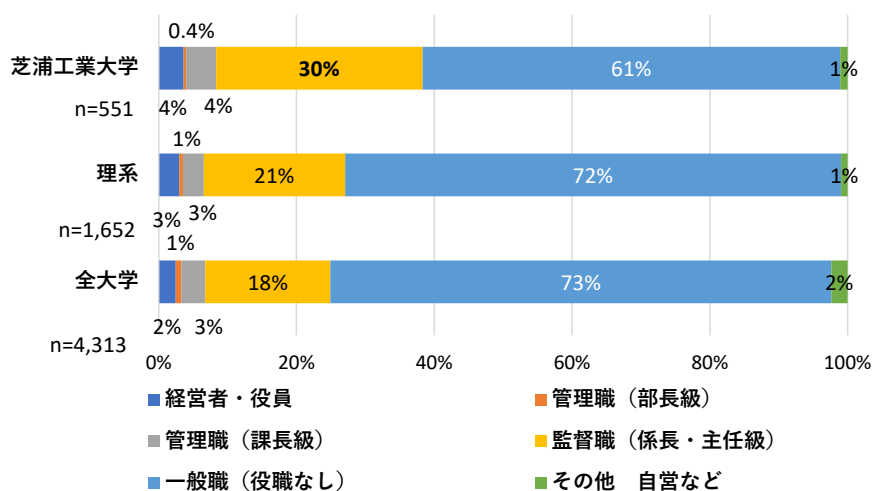
図9-5 現在の勤務先での職種(Q11_5)



（６）現在の職階

卒業生の現在の職階は、「一般職(役職なし)」61%が最も多く、次いで「監督職(係長・主任級)」30%が多いです。「監督職(係長・主任級)」は全大学より12ポイント、理系より9ポイント多いです。卒業生の円滑な昇進・昇格が伺えます(図9-6)。

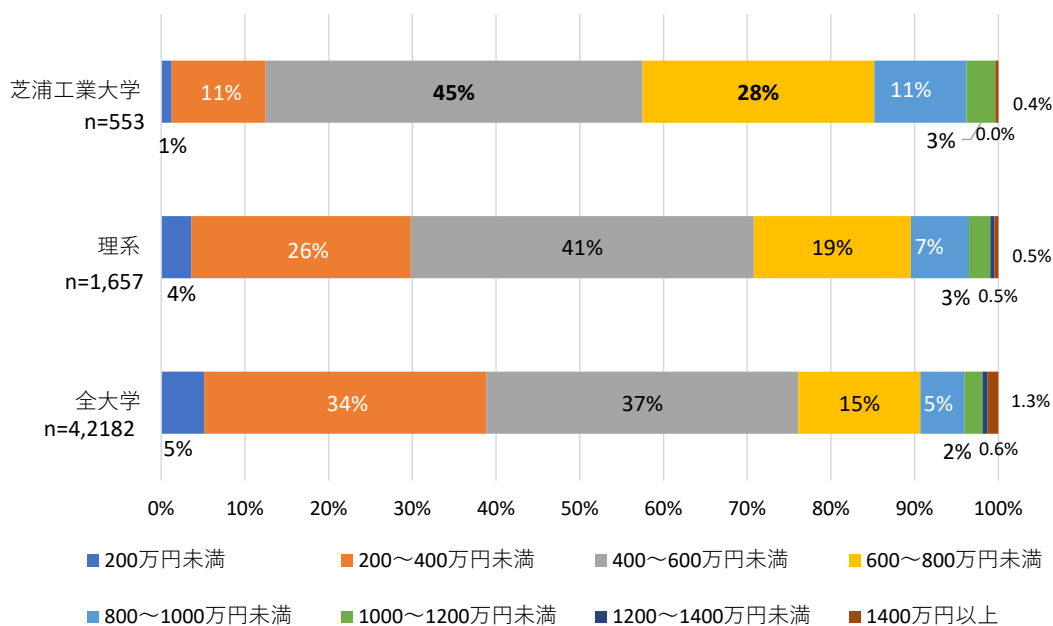
図9-6 現在の職階(Q11_6)



（７）年収

卒業生の年収は「400～600 万円」45%、「600～800 万円」28%、「800～1000 万円」11%で全大学や理系より占める割合が多いです。卒業生は比較的に高収入であることが伺えます(図9-6)。

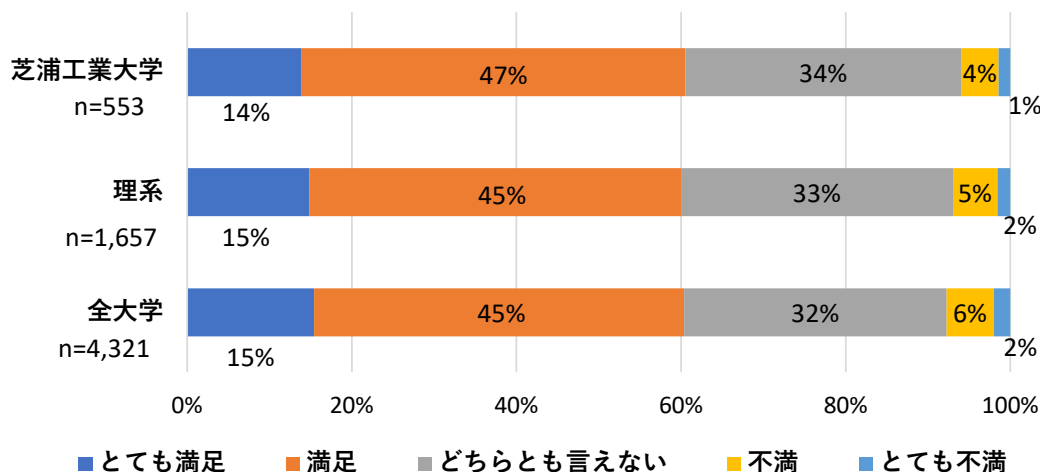
図9-7 現在の年収(Q11_7)



10. キャリアパスの満足度

本学の卒業生はキャリアパスの満足度に「とても満足」14%、「満足」47%です。合計で6割がキャリアパスに満足しています。全大学や理系も同様の結果です(図10)。

図10 キャリアパスへの満足度(Q12)



11. 海外での勤務経験や業務における外国語の使用

本学の約4分の1の卒業生は、「2. 海外出張の経験がある」24%、「4. 外国語を使用し、メールや文書のやりとりをする必要がある(あった)」23%と答えています。その割合は、全大学や理系よりも5ポイントから10ポイント程度多いです。また、「3. 外国語を使用し、会話や議論をする必要がある(あった)」16%、「1. 海外での勤務経験がある」5%についても全大学や理系よりも多くなっています。ただし、6割を超える卒業生は「6. どれもあてはまらない」63%と答えています。その割合は、全大学71%、理系66%です(次ページ、図11)。

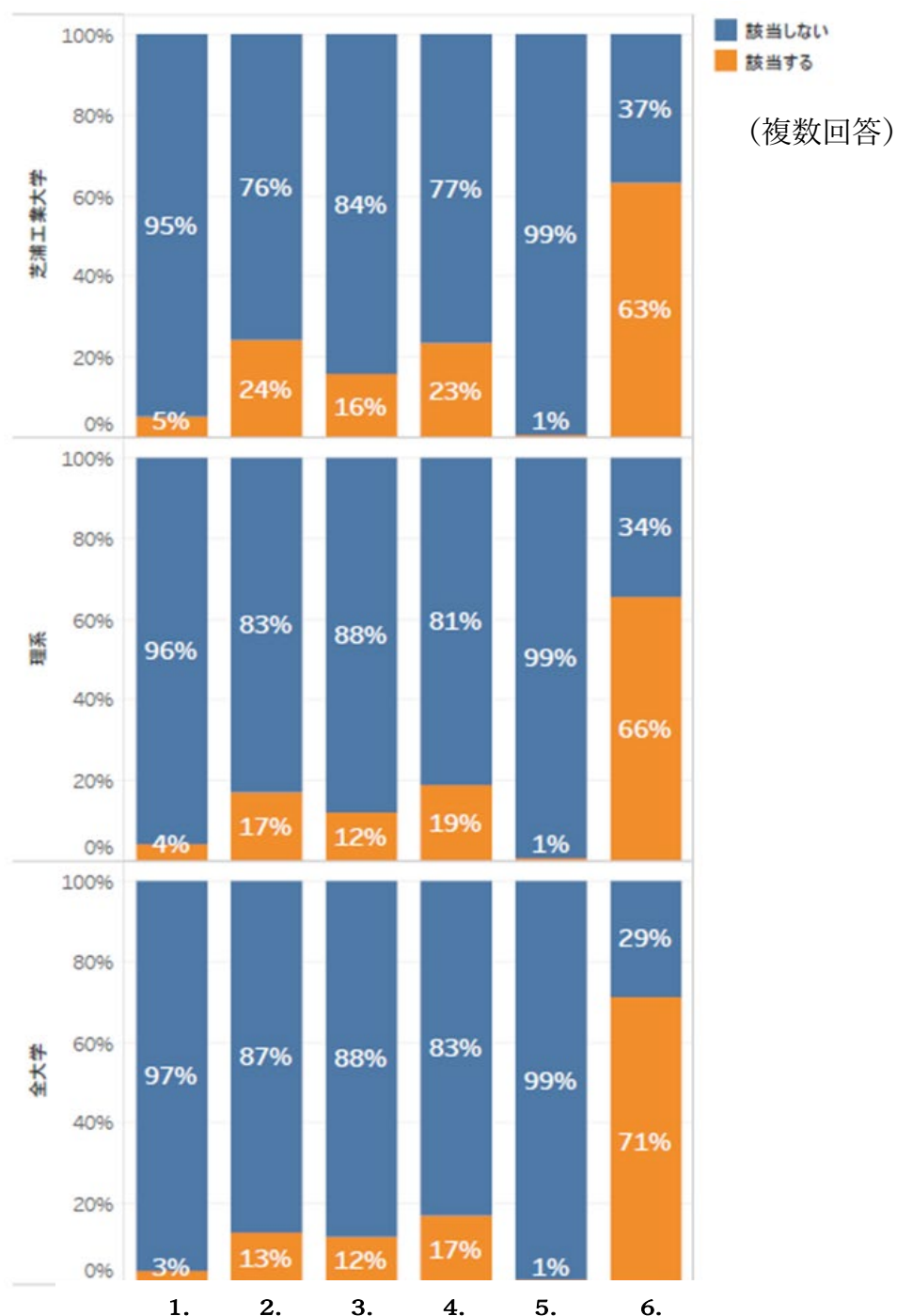
12. 大学生時代に身につける能力の重要性

卒業生調査では、大学時代に身につける能力の重要性を19項目についてたずねています(次々ページ、図12)。選択肢は、「重要」「どちらかといえば重要」「どちらともいえない」「どちらかといえば重要でない」「重要ではない」の5段階です。図12は、平均点で、芝浦工業大学の点数の高い順に並べ替えています。

まず、点数が高い項目は、「N. コミュニケーションの能力」4.6点、「B. 分析力や問題解決能力」4.6点、「G. 人間関係を構築する能力」4.6点、「H. 他の人と協力して物事を遂行する能力」4.6点、「R. 時間を効果的に利用する能力」4.5点等です。

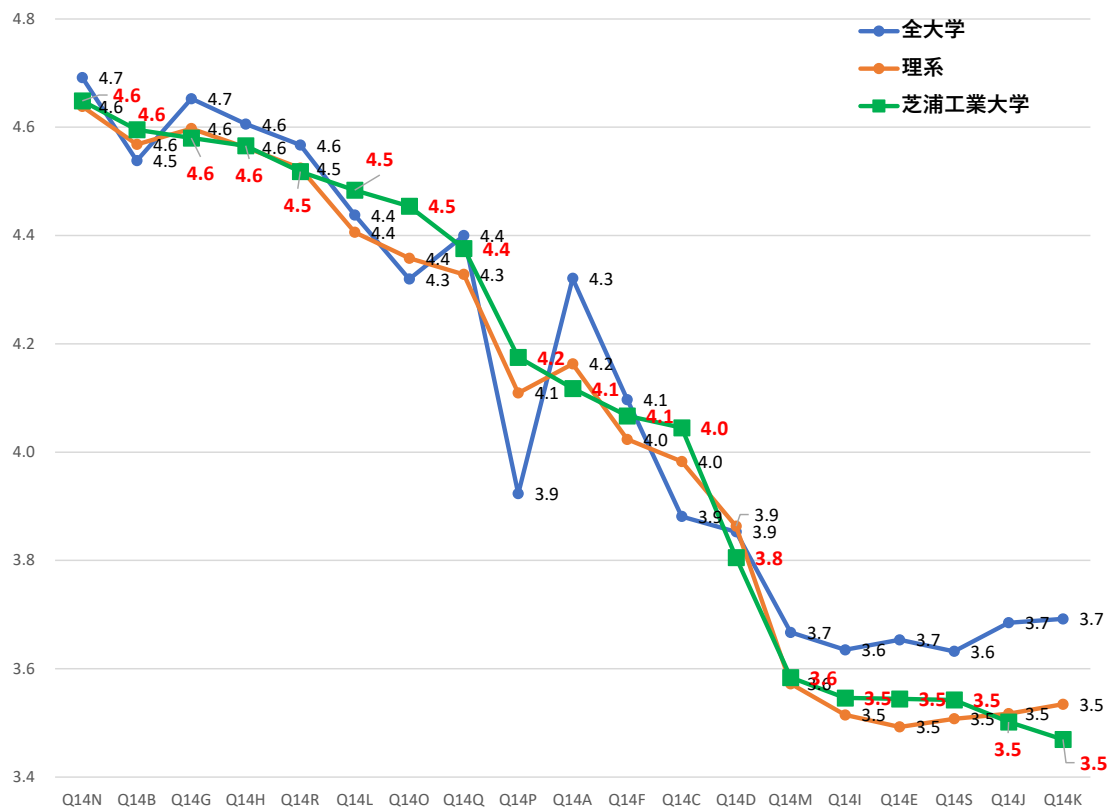
一方、「I. 異文化の人々と協力する能力」3.5点、「E. 異文化の人々に関する知識」3.5点、「S. グローバルな問題の理解」3.5点、「J. 地域社会が直面する問題を理解する能力」3.5点、「K. 国民が直面する問題を理解する能力」3.5点等は点数が低くなっています。

図 11. 海外での勤務経験や業務における外国語の使用(Q12)



1. 海外での勤務経験がある (n=559; n=1,737; n=4,419)
2. 海外出張の経験がある (n=559; n=1,737; n=4,419)
3. 外国語を使用し、会話や議論をする必要がある (あった) (n=559; n=1,737; n=4,422)
4. 外国語を使用し、メールや文書のやりとりをする必要がある (あった)
(n=559; n=1,737; n=4,421)
5. 社内公用語が外国語である (あった) (n=559; n=1,737; n=4,419)
6. どれもあてはまらない (n=559; n=1,737; n=4,467)

図12. 大学生時代に身につける能力の重要性(Q14)



- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1 Q14N.コミュニケーションの能力 | 11 Q14F.リーダーシップの能力 |
| 2 Q14B.分析力や問題解決能力 | 12 Q14C.専門分野や学科の知識 |
| 3 Q14G.人間関係を構築する能力 | 13 Q14D.批判的に考える能力 |
| 4 Q14H.他の人と協力して物事を遂行する能力 | 14 Q14M.外国語の運用能力 |
| 5 Q14R.時間を効果的に利用する能力 | 15 Q14I.異文化の人々と協力する能力 |
| 6 Q14L.文章表現の能力 | 16 Q14E.異文化の人々に関する知識 |
| 7 Q14O.プレゼンテーションの能力 | 17 Q14S.グローバルな問題の理解 |
| 8 Q14Q.コンピュータの操作能力 | 18 Q14J.地域社会が直面する問題を理解する能力 |
| 9 Q14P.数理的な能力 | 19 Q14K.国民が直面する問題を理解する能力 |
| 10 Q14A.一般的な教養 | |